

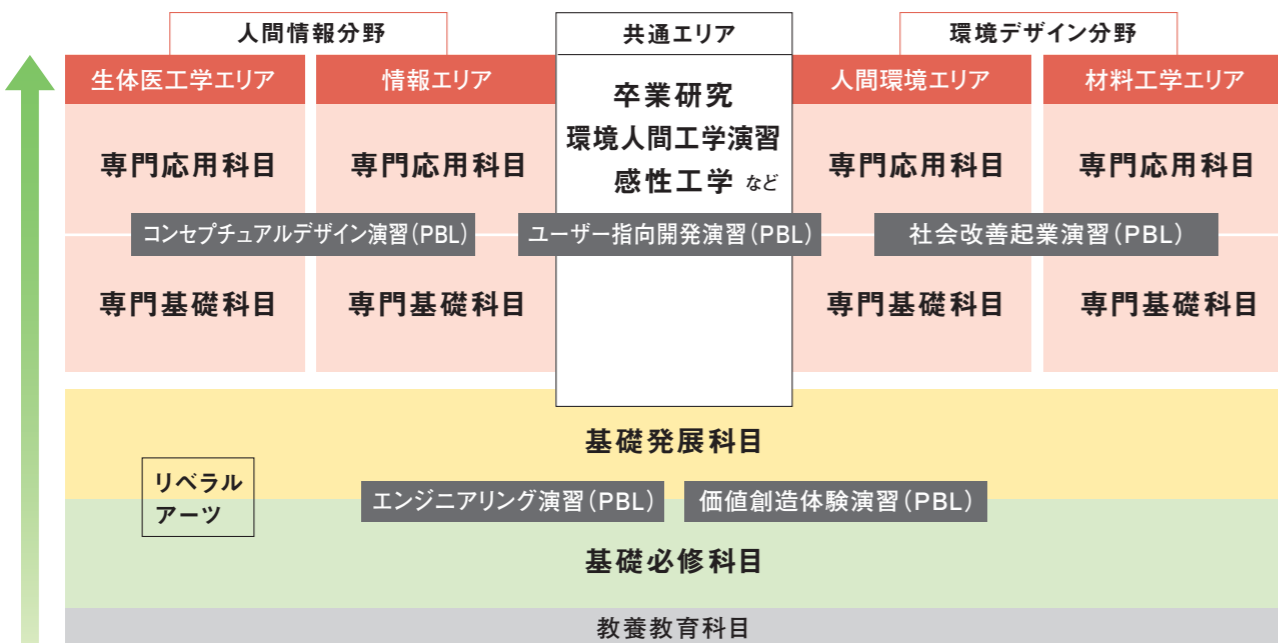


キャンパス / 奈良県奈良市 学生数 / 2,575人 創立 / 1908年(奈良女子高等師範学校)  
 基本理念 / 「男女共同参画社会をリードする人材の育成」「教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度化」「高度な基礎研究と学際研究の追究」「開かれた大学」  
 学部 / 文、理、生活環境、工 大学院 / 人間文化総合科学  
 THE 日本大学ランキング2023 / =61位

## 工学部ビジョン「人と社会のため工学」

包括的な知識と専門性を身につけた未来を拓くエンジニア・イノベーターを育成する

分野・学年横断の科目選択が可能な履修制度



### カリキュラムの特色1 自由(科目・学年)な履修制度

「専門は学部修了までに検討し、大学院で学ぶ」という考えに基づき、単位の約半分は分野、学年を問わず自由に選べる。興味を持った科目を選択することにより、自分だけのキャリアをつくれるよう設計。

### カリキュラムの特色2 イノベーションの基礎となるSTEAM教育

芸術(造形デザイン科目) 情報・工学基礎科目 理科・数学基礎科目

### カリキュラムの特色3 個性的なエンジニアをつくるリベラルアーツ

自己プロデュース 歴史・文化教養科目 キャリア形成基礎科目

## 注目 中・高・大学生が企業の技術を体験する女性エンジニア養成プログラムを開講

2023年夏季から、中3生、高校生、学部生を対象に「WE (Women Engineers) プログラム」を開講している。これは、女性エンジニア養成に賛同する企業の出資で実現したものだ。賛同企業が、自社や大学で1日～数日間のワークショップを開催。自社の先進的な取り組みの紹介や、体験実習を行う。参加は無料で、開催地への交通費、宿泊費も全額支給する。「工学に興味があるが体験する機会がない」中高生に場を提供し、エンジニアをめざす女子学生にはその道をめざし続けてもらう目的がある。

2023年はブレ企画の扱いで、翌年度に向けて開催時期やワークショップ数の増加を検討中。1ワークショップにつき50万円で新規企業の参画を募る計画だ。その出資金は基金化して、女性エンジニア育成のためのさまざまな施策に活用することを予定している。「プログラム名の『WE』には、みんなで女性エンジニアを育てるという意味がある。社会が率先して女性エンジニアを育てるためのインフラにしたい」と藤田学部長は述べる。

### 応募者の属性(2023年夏季)

大学生 (奈良女子大学) 35人	大学生 (他大学) 28人	高校生 113人	中3生 11人
------------------------	---------------------	-------------	------------

※33都道府県から187人の応募

### 開催ワークショップ(2023年夏季)

ワークショップ名	提供企業等
見て触って作って、リアルな工学がわかる	DMG森精機(株)
ロボットイ「toio」で最新ロボット体験!	(株)ソニー・インタラクティブエンタテインメント
AIを活用できる人材になろう!	ソニー(株)
インクルーシブ・スーパーヒーローズ —イノベーションを意識したコ・デザイナー—	奈良女子大学(公財)住友電工グループ社会貢献基金寄付講座
世の中を便利にする小さな魔法〜LSI	東芝情報システム(株)
先端技術で社会課題に挑む	DMG森精機(株)
グッドなジョブを作るデザインワークショップ —人と一緒に作る新たな働きかた—	奈良女子大学(公財)住友電工グループ社会貢献基金寄付講座

# 工学のダイバーシティ化を推進し日本の未来を変える

CASE STUDY

## 奈良女子大学

「日本初の女子大工学部」として大きな話題となった、2022年度の工学部設置。工学の未来への危機感を背景に、男性社会でも生き抜ける女性エンジニアを育てる。



工学部 学部長

### 藤田 盟児

ふじためいじ ●1984年東京大学工学部建築学科卒業、1991年同大学大学院工学系研究科博士課程修了。1991年奈良国立文化財研究所研究員、1996年名古屋造形芸術大学(現名古屋造形大学)助教授、2003年広島国際大学教授、2016年奈良女子大学教授。2022年より現職。

### 自学の学部設置を工学女子増加の拠点に

日本における女性エンジニアの少なさは、「いびつ」どころではなく、国家的な危機感とも言えます。世界中で\*1ジェンダード・イノベーションの必要性が叫ばれ、ダイバーシティを確保できない企業が投資対象から外れる現代においても、日本のエンジニアリングは圧倒的に男の職場。工学部生も8割が男子です。企業も大学も、今動かねば未来はないでしょう。工学部設置の推進役を任せられた私は、単に自学の学部を増やすためではなく、日本の女性エンジニアを増やす拠点にする決意を固めました。女性が魅力を感じる工学部づくりのモデルにしたのは、アメリカで学生の力を伸ばしている、\*2オーリン工科大学と\*3ハービー・マッド大学です。前者は「エ

### どこでも活躍できる力を育成するプログラム

社会変動が激しい中、高校や学部低学年で専門分野を決めるのはリスクです。そのため、能力や個性を見極めて、エンジニアとしての特色をつくれるよう、リベラルアーツ型のレイトスペシャリゼーションを採用しました。これは受験生にも好評で、入学決定要因の上位に挙がっています。また、在学生の7割近くが大学院進学を希望しています。私は大学院入学時に専門を選び、30歳までに「人生をかけてやりたいこと」を見つければよいと考えます。入学者にはものづくりが好きなき学生が多く、「何をつくってもいい」PBL科目に意欲的に取り組んで

います。一方「社会全体を学んで現在の工学を見直し、自分の特色をつくる」というリベラルアーツの意図は伝わり切っていません。受験生への周知強化が必要です。工学を学ぶ女子が、現状の男性社会の中で将来像を実現するための心構えを学ぶ、コーチングプログラムを開講したのも特色の一つです。個別面談のコーチは、企業的女性エンジニアが担当。初年度の対象は学部2年生のみで、同期生がサポートし合う組織をつくるべく、定員60名中、15名を本学他学部学生に、15名は他大学の女子学生に振り分けました。2024年度からは、リーダーシップ育成プログラムも設けます。結果を見てから次の策を考えているようでは、今、学んでいる学生たちに間に合わないため、初年度実施中に追加を決めました。めざすのは「ここで4年間を送れば、どこに行っても大丈夫」と言える教育。3・4年次を迎える1期生には、人生をかけるものを自分で決め、自分で研究する厳しさをこれから味わってもらいます。「日本の女性エンジニアのため」という初心を忘れず、産業界との関係も広げながら、女性が隠せずエンジニアをめざし、力を発揮できる社会をつくっていきます。

\*1 性差を意識した研究や開発によって生まれる技術革新  
 \*2 フランクリン・W・オーリン工科大学。1999年にオーリン財団からの資金援助を受け設立。アメリカの工学教育改革めざす  
 \*3 理系のリベラルアーツ大学。STEM分野と人文・社会科学に精通した人材を育成する

取材・文 / 見山雄介 撮影 / 近藤編り